

村山民俗学会

第 387 号

発行日 2024 年 1 月 1 日

発行責任者 岩鼻 通明

編集担当 岩鼻通明

新年のごあいさつ

会長 岩鼻 通明

あけましておめでとうございます。長かったコロナ禍もようやく終わりを告げ、様々な学会活動もオンラインからリアル開催となり、懇親会も復活した一年でした。そのような中で、我々の村山民俗学会および山形県民俗研究協議会は、春と秋の総会をほぼ欠かさず開催できたことは奇跡に近かったのかもしれない。

さらに、2022 年秋には東北地方民俗学合同研究会も山形で無事に開催することができましたことも、会員のみなさまのご協力がなければなしえなかったわけで、改めて、この間のお力添えに感謝を申し上げます。

ところで、昨年の総会において、会計面でのいくつかの重要な指摘をいただきました。その中で未解決なのが、会長が事務局の会計担当を兼ねる問題です。会長となってから、山形市無形民俗文化財調査報告、そして日本山岳修験学会山寺立石寺大会の開催などを終えることができ、そろそろ会長の座を降りるべき時期に来たことを自覚しています。新年度からは新体制に移行することを、新年のごあいさつで表明したいと存じます。

次年度の民俗誌 古代から限界集落へ（その 1）

書き留めた古老のはなし

平林 叔子（円重寺）

娘が 2 歳で私も 20 代、手をつないで地蔵さまの前で手を合わせる。地蔵さまの向こうには、まだ花の咲かないススキの穂先が、青空を微かにゆらしている。「地蔵さまはなんて言ったっけ?」と声掛けしながら緩い坂道を歩いていく。坂道の土手向こうに老婆がシャガンデいる。まるでひらがな「の」の恰好で両足の膝が顎の下に見える。[天気いいくていいなア]と、他愛ない話の老婆の顔は深いシワで大きくて歯の無い口、まるでガンゴウ! シワの中の何処に目が有るのが分からない程。98 年生きた顔である。

幼児を見ていて思い出したのか驚きの話をした。

「おらよ 死にバグッタさげコダイな鬼バンバなるまで生きだワ」

「なして死にバグッタなや」と私

「オレ産まったとき、オナゴ親の足元さツットコサエテ待ってだっけどワ、そんな時オトコ舅がこれで収めてワ、終わりにするようにと、ツットさ入れねで名前付けで終わりにしたどー。それでオトメと名前ついたんだアー」

「もう少しでツットさ入るとこだったさゲ、ゴタイな鬼ばんばなるまで生きたんだワ、迎えさくるまで生かされるべー」と大声で笑いながら、まるでクッタクのない昔ばなしをするかのように。右手は、鍬を離さずにソリソリ動かしている姿は農一筋に生きた明かし。98 才での老婆は逆算すると大正 10 年（1921）生れ、最上（もがみ）出身である。その後